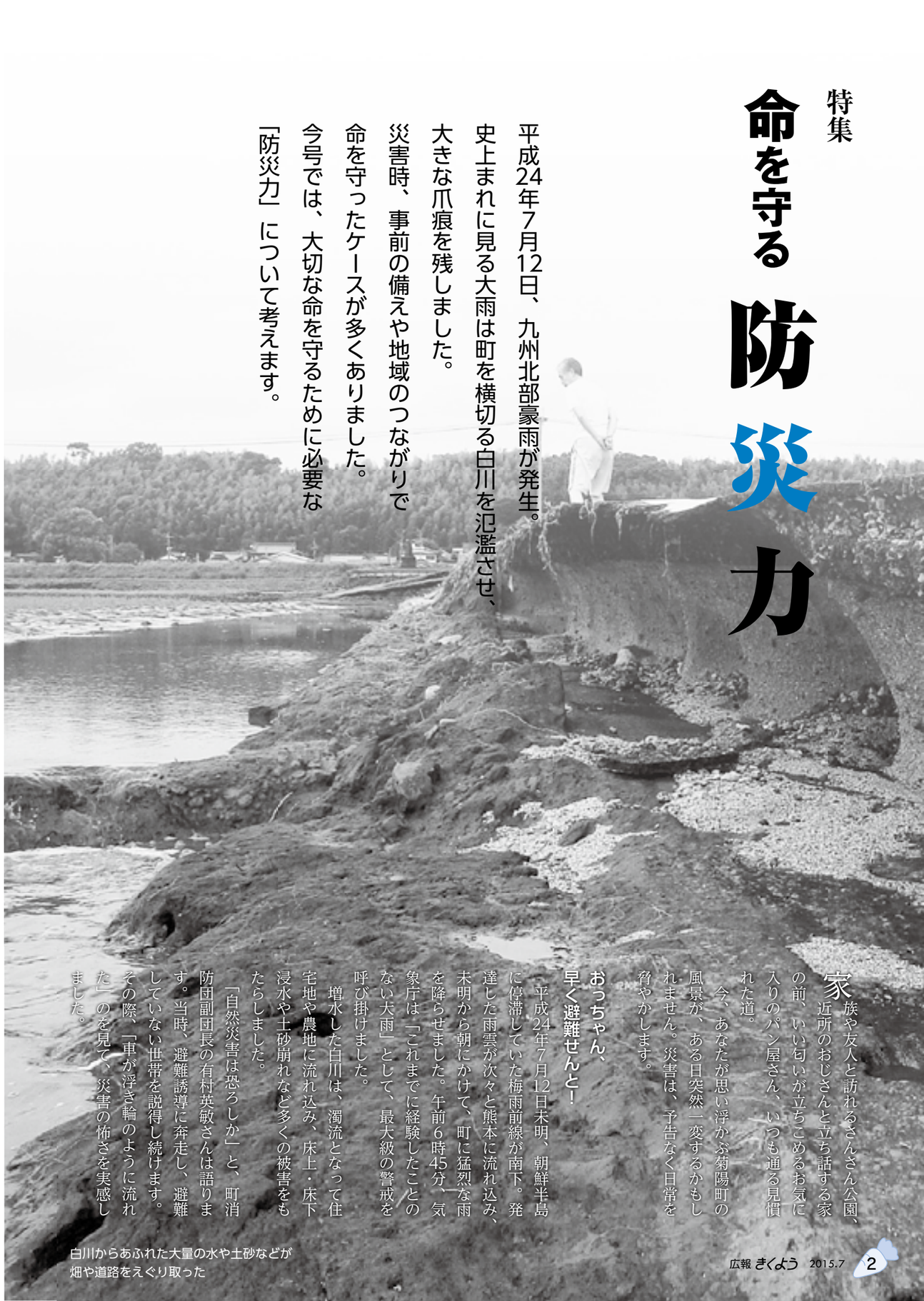
特集

命を守る 防災力

平成24年7月12日、九州北部豪雨が発生。史上まれに見る大雨は町を横切る白川を氾濫させ、大きな爪痕を残しました。災害時、事前の備えや地域のつながりで命を守ったケースが多くありました。今号では、大切な命を守るために必要な「防災力」について考えます。



白川からあふれた大量の水や土砂などが畑や道路をえぐり取った

家族や友人と訪れるさんさん公園、近所のおじさんと立ち話する家の前、いい匂いが立ちこめるお気に入りのパン屋さん、いつも通る見慣れた道。

今、あなたが思い浮かぶ菊陽町の風景が、ある日突然一変するかもしれません。災害は、予告なく日常を脅やかします。

おっちゃん、早く避難せんと！

平成24年7月12日未明、朝鮮半島に停滞していた梅雨前線が南下。発達した雨雲が次々と熊本に流れ込み、未明から朝にかけて、町に猛烈な雨を降らせました。午前6時45分、気象庁は「これまでに経験したことのない大雨」として、最大級の警戒を呼び掛けました。

増水した白川は、濁流となって住宅地や農地に流れ込み、床上・床下浸水や土砂崩れなど多くの被害をもたらしました。

「自然災害は恐ろしか」と、町消防団副団長の有村英敏さんは語ります。当時、避難誘導に奔走し、避難していない世帯を説得し続けます。その際、「車が浮き輪のように流れた」のを見て、災害の怖さを実感しました。

町内の主な被害

死者・行方不明者	0人
重傷者・軽傷者	0人
住宅全壊・半壊	0棟
住宅床上浸水	29棟
住宅床下浸水	52棟
農地冠水	65ヘクタール
農道の破損	1,227メートル

1ガードレールにはさまった大量の木々やおもちゃの車　2床上・床下浸水で土砂にまみれた家屋の泥出しや家財道具の運び出しが連日行われた　3下津久礼地区で孤立した人の救助に向かう消防隊員。18人が無事に救助された　4増水した白川の水は威力を増し、濁流となってガードレールをなぎ倒した

下津久礼消防団
（左から）東矢（とうや） 浩伸（ひろのぶ）さん、松本（まつもと） 憲亮（けんすけ）さん、吉村（よしむら） 龍博（たつひろ）さん

災害を想定しマニュアル作成

10分ほどで腰まで水が来ました。事前に車を移動した所もあり、つながりと災害を伝承する大切さを痛感。この日以降、災害マニュアルを作り、地域で情報を共有しています。

戸次区の白川沿いに住む今村萬さんも隣に住む有村さんに助けられました。避難を呼び掛けられたものの、「まだ大丈夫」と1人で家財道具を必死に2階へ運んでいたという今村さん。有村さんは逃げていない今村さんに気付くと風呂場の窓から家の中に入り「これ以上水が上がるならいかん。おっちゃん、早く避難せんと！」と説得します。今村さんは、われに返り、濁流にのまれないよう風呂場の窓から外へ出て、手すりにつかまり階段を駆け上がりました。

今村さんは「本当に感謝している。水は浸入するとき音もしない。あっという間の出来事だった。まさか堤防を越え、腰の高さまで水がやって来るなんて」と振り返ります。

「1人では何もできない」「地域のつながりは大切」「いつか恩返しをしたい」。水害に遭った人は、避難の呼び掛けや災害後の家屋の泥出し、片付けなどに全力を尽くした地域住民と町消防団に対し、このように感謝の言葉を話していました。

戸次区
有村（ありむら） 英敏（ひでとし）さん（左）
今村（いまむら） 萬（よろず）さん（右）

70.1%

この数字何だか分かりますか。
災害の備えをしていない
町民の割合です。

後悔先に立たず ひとごとではない災害

1月~2月、町は18歳以上の4，500人を無作為に抽出して「町民意識調査」を行いました。「災害に必要な備えが何かを知っている」のは63・9％でしたが、70・1％が「備えをしていない」と回答するなど、災害対策はできていません。

この状況に危機感を覚えるという塚脇康晴総務課交通防災係長は「東日本大震災や九州北部豪雨の光景を見たとき、災害への備えが必要だと感じた人も、今はどうでしょうか。町と姉妹都市を結ぶ屋久島町も、口永良部島・新岳の爆発的噴火で、今も避難生活を送っている人がいます。災害はひとごとではありません」と力を込めます。

防災対策で被害は大幅に軽減 「命を守る」対策を早急に

町は災害に備えて食料品や毛布などを備蓄しています。災害時の人的・物的応援協定を企業と結んでいますが、それらには限りがあります。非常持出品と非常備蓄品3日分を準備し、家庭や地域で災害時の避難場所や連絡方法について具体的に話すことが重要です。

「私の子どもたちには、何かあったら祖母の家に行くよう伝えています。まずは大人が防災への意識を高く持つことが大事です。清掃活動で危険箇所を確認する、夏祭りで防災グッズを配るなど、地域活動の中でも防災に取り組めます。家庭と地域で備えることで被害を軽くできます」

interview

『あの時ちゃんと準備しておけば良かった』と後悔しても遅いんです。

町の防災を担当する
塚脇（つかわき） 康晴（やすはる）
交通防災係長

国の「南海トラフ巨大地震対策ワーキンググループ」は、南海トラフ巨大地震が起きた場合、九州にも被害が及ぶと予測します。最悪のケースは県内の死者は20人で、負傷者数は約400人、建物崩壊は3，200棟、町の最大震度は「5強」でした。5強は「固定していない」家具が倒れる揺れで、下敷きになる可能性がある震度です。家具などの転倒・落下で全国の死者数は現時点で約3千人と想定されていますが、対策することで約900人になると推計されています。

「『いつ起こるか分からない災害』は『あした起こるかもしれない災害』です。『あの時ちゃんと準備しておけば良かった』と後悔しても遅いんです」と強調します。屋内では、家具をしっかり固定し、寝室や出入口、通路には物を置かないなど地震対策に努めましょう。屋外では、アンテナの固定や屋根瓦の補強、ブロック塀のひび割れや破損の修理をしておくと安心です。

町は防災会議を6月4日に開催し、梅雨時期の天候予想や町防災計画を検討。各関係機関と災害時に必要な情報を共有しました。6月7日には町消防団が規律訓練と危険箇所の水防巡視を行い、災害に備えています。

「広範囲な災害が起こった場合、町などの公的機関がすぐ動けるとは限りません。災害時、いち早く動けるのは地域です。町は、自主防災組織の設立と活動に補助金を交付しています。その他、立ち上げの方法や活動の助言、そろえる物品の紹介など地域の防災活動を支援しています。ぜひご活用ください」

自主防災組織を設立し 防災活動を持続しませんか

町と県は自主防災組織の設立と活動を支援しています。普段の地域活動に防災活動を取り込むことで防災活動は身近になり、長続きします。

■対象組織
小学校区や区・自治会などを単位とした組織

■対象
防災知識の普及活動、地域内の防災点検、各種訓練（年間2回以上）、情報伝達計画・避難誘導計画の策定など

■新規設立補助
10万円（町5万円、県5万円）

■活動活性化補助
町：毎年4万円
県：2万円（2年目、3年目）

自分で備える

防災には、事前の備えが大切です。
まずは「自分の命は自分で守る」ために
「災害時の6カ条」を家庭や地域で
確認しませんか。

増水した馬場楠堰

その1 もしものときのための ハザードマップ

危険箇所や避難場所を確認しよう！

もしものときに、あなたとあなたの大切な人を守る「菊陽町防災ハザードマップ」。災害時の連絡体制や自分が住む地域の危険な場所、避難経路を家族で共有していますか。町ホームページでも見られますので、ご活用ください。

その2 地震に強い家づくり 耐震性の強化

被害を最小限に食い止める！

昭和56年以前着工の木造住宅の耐震性を強化すると、南海トラフ巨大地震での全国死者数3万8千人が5,800人に減少すると想定されています。都市計画課☎(232)4927は耐震診断と耐震改修の費用の一部を補助しています。

その3 地震や河川、雨情報、避難勧告などを配信 県防災情報メール

最新の気象情報、避難情報などをすぐ受信！

■登録方法
空メールを送り、届いたメールから登録
entry@anshin.pref.kumamoto.jp
▶QRコード

■問い合わせ
県危機管理防災課
☎(333)2118

その4 いつでも避難できるよう準備 非常持出品

災害から3日間をどう生き延びるかがカギ！

南海トラフ巨大地震のような災害は広域な被害をもたらします。交通のまひで支援物資が届かない場合もあります。

家族構成に合わせて何が必要か話し合い、非常持出品や非常備蓄品3日分を用意しておくと安心です。

非常持出品（例）

その5 小・中学校の防災教育にも！ ビデオ映像で学ぶ

災害時に初めに取る行動が分かる！

気象庁ホームページ「災害から身を守ろう」を知っていますか。地震や大雨、竜巻、雷、津波から身を守るための知識や行動、避難の大切さ、避難の仕方などをビデオ映像で見られます。分かりやすいので、防災教育にも使えます。

堤防に残る巨大な流木

その6 降水や落雷、竜巻の即時予報 気象ナウキャスト

刻々と変化する「今」の気象情報を「予測」！

5分ごとの降水や落雷、竜巻の状況を1時間先まで予報している気象ナウキャスト。特に降水情報は、より細かく、雨雲の移動や雨の強弱が見られ、視覚的に分かります。

▶QRコード

想定外を想定内へ 地域や学校の備え実る

口永良部島・新岳で5月29日、爆発的噴火が発生。迅速な避難行動で島民137人が避難しました。災害に備え、何が必要なのかを考えます。

1熊本の小学生が励ましの言葉を書いた割箸をじっと見つめる　2温かい雰囲気の中、陸上自衛隊音楽部の演奏が行われた　3ラーメンを口にし「あったまる」と話す　4「できる限りの支援をしたい」と話す荒木耕治屋久島町長

姉妹都市の鹿児島県屋久島町・口永良部島の新岳噴火で、屋久島に避難している被災者を応援するイベントが6月14日、屋久島離島開発総合センターで行われ、被災した島民など約300人が集まりました。陸上自衛隊第12普通科連隊音楽部や中央中学校吹奏楽部による演奏、NPO法人「ボランティア仲間九州ラーメン党」の炊き出しなどが行われました。

噴火から避難してきた屋久島町立金岳中3年生の山口かの子さんは、当時をこう振り返ります。「数学のテスト中でした。突然がたがたドンっと大きな音がしたんです。窓を開けて、噴火に気付いた先生が『逃げろ。避難だ』と叫びました。車に乗り込むまでは冷静でしたが、大きな煙が見えたときはすごく怖かったです。怖くて泣いている子もいました」

新岳の爆発的噴火から約6時間後、全島避難指示を受けた島民137人が屋久島へ無事に避難できました。

昨年8月の噴火後、地域や学校で噴火を具体的に想定した訓練と災害弱者を把握するなどの準備をしてきました。「訓練をしていたので、スムーズに避難できました。いろんな人からの支援がうれしい。1日でも早く家に帰りたいです」

荒木耕治屋久島町長は「1人の犠牲者もなかったのは、日ごろから高い防災意識を持って訓練してきた島民の大きな成果。今後も危機意識を持っていきたい」と話しました。

屋久島町立
中央中学校２年
川﨑（かわさき）　寿美（ことみ）さん

避難してきた口永良部島の中学生と、屋久島で一緒に勉強しています。一生懸命勉強している姿が心強いです。一日も早く口永良部島に戻れることを願っています。

人のつながりが強い地域は災害にも強い

自主防災組織は、避難誘導や救助活動に備え、区・自治会が任意につくる組織です。昨年4月1日現在で町の組織率は県内最下位の44・8％でした。ことし4月1日現在では65・1％まで上がりましたが、全国平均80％、県平均70・8％のいずれも下回っています。

南方区の自主防災組織は昨年9月14日、風水害を想定し、避難訓練を行いました。午前9時に放送で避難が呼び掛けられると、避難場所へ移動。名簿の確認が行われ、公民館へ避難しました。

公民館では、消防署職員が心肺蘇生法やAEDの使用方法を説明。防災訓練の方法を学び、AED操作を体験した後、消火訓練をしました。

消防署職員は「もし消防施設が被災したら、私たちの救助活動が遅れてしまうかもしれません。そんなときこそ自主防災組織は大事な役割を果たします。家族、地域で助け合い、命を守る訓練をしてほしい」と訴えました。久保田昌生区長は「日ごろから訓練しないと、いざというときできない。地域で支え合う気持ちを持って取り組んでいきたい」と前を見ました。

隣近所で助け合う「近助」 それが大切な命と財産を守る

家庭や地域で一緒に防災力を高めませんか。
あしたも、あさっても、ずっと先も。
大切な人の笑顔を見られるように。

南方区
笠（りゅう）　秀樹（ひでき）さん

とてもためになりました。いざというとき訓練していないとできません。万が一のときは近所の人を助けたいです。

南方区
井上（いのうえ）　太代美（たよみ）さん

消火器で消火訓練をしました。一度覚えると意外と簡単です。火災時はその場で消火できると思います。

南方区
相馬（そうま）　博生（ひろお）さん

AEDの操作方法は、慌てると忘れます。繰り返し訓練することが大切。また機会があればしたいです。

1名簿確認　2誘導者が持つ旗に付いている手書きの防災マップ　3消火器の耐用年数や操作方法を学び消火訓練　4心肺蘇生法を教える消防署職員　5炊き込みご飯や漬物などを作る炊き出し班　6心臓マッサージの方法を人形で学ぶ　7小組合ごとの色違いの旗を目印に移動　8南方公民館で防災・減災について学ぶ南方区の自主防災組織。子どもも大人も真剣そのもの